

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年10月30日（水）
- 2 確認箇所
2号機原子炉建屋（図1）
※作業状況を遠隔操作室において確認
- 3 確認項目
2号機燃料デブリ試験的取り出し作業の状況

4 確認結果の概要

2号機においてテレスコピック式試験的取り出し装置（以下「テレスコ装置」という。）による燃料デブリ^{*1}試験的取り出し作業が8月22日から実施されており、9月9日にテレスコ装置先端部が原子炉格納容器（以下「PCV」という。）隔離弁を通過し、作業着手となった。

その後、燃料デブリ把持作業の準備として、9月17日にテレスコ装置の動作確認等を行ったところ、テレスコ装置先端のカメラ映像（①先端治具監視カメラ、②アーム先端部カメラ）が遠隔操作室内のモニターに適切に送られてこないことが確認された。

このため、カメラ映像の復帰作業が行われたが、カメラ映像が復帰しないことから、10月17日～18日に当該カメラ2台の交換作業が行われ、10月28日に燃料デブリ試験的取り出し作業が再開された。

本日は、燃料デブリの把持作業が実施されることから、その状況を確認した。（前回確認：[令和6年10月28日](#)）

【確認結果概要】

- ・押し込みパイプを90度反時計回りに回転した後、テレスコ式アームを傾けた状態で伸長し、先端治具をペDESTAL^{*2}内に挿入した。
- ・その後、先端治具の吊り降ろしを行い、ペDESTAL底部に堆積している燃料デブリを先端治具で把持した後、テレスコ式アームを作業開始前の状態まで戻して本日の作業は終了となった。
- ・作業は細かいステップに分けられており、作業毎に遠隔操作室から現場作業員に対してトランシーバーを使用して作業内容の説明が行われ、その後、現場でTBM-KY^{*3}が実施された後、作業が開始された。
- ・作業の区切り毎に現場から遠隔操作室に報告があり、現場と遠隔操作室において情報の共有が図られていた。

※1 燃料デブリ

加熱した燃料が燃料被覆管や炉内構造物等とともに熔融し、その熔融物が冷えて固まったもの。

※2 ペDESTAL

原子炉圧力容器と遮蔽壁を支える円筒状の鉄筋コンクリート製の架台。

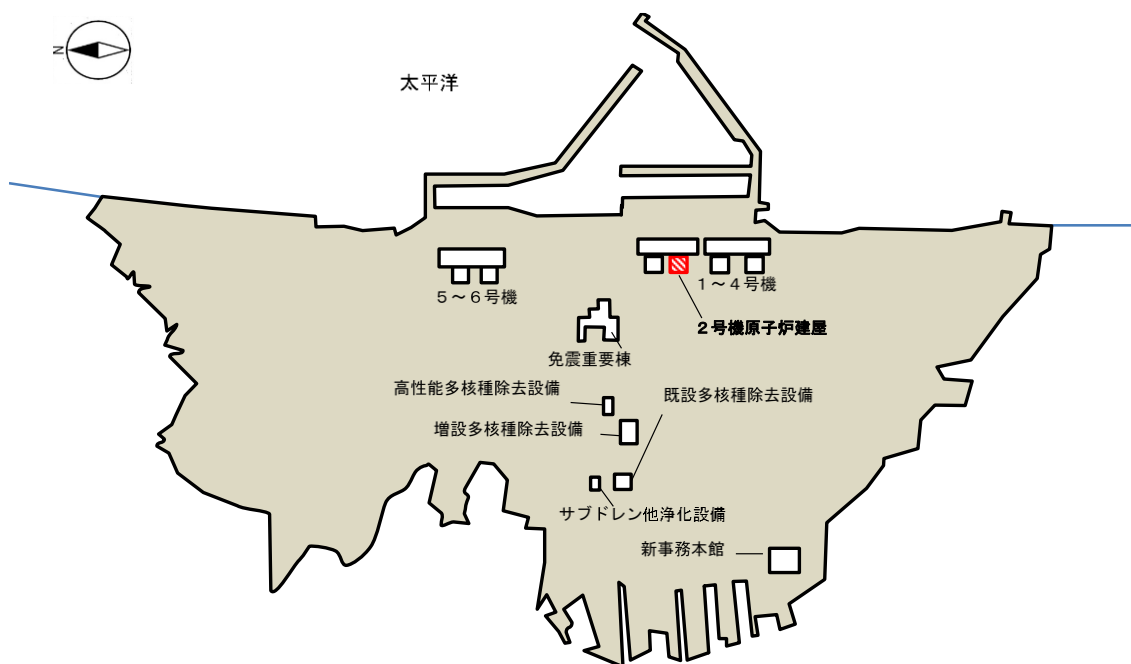
※3 TBM-KY

TBM (ツール・ボックス・ミーティング)

: 作業開始前に行う打ち合わせのことで、「ツール・ボックス=工具箱」の近くで行われるため、このように呼ばれている。

KY (危険予知活動)

: 労働災害や事故の原因となる可能性のある不安全行動や不安全状態を「予知」「予測」するための取り組み。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータに異常な値は確認されなかった。